危険度の高いグループを鑑別するための コンピュータ多相スクリーニング

Rafael S. Carel, M.D.*

多数の因子を含む病因による慢性疾患が、西欧社会の疾病および死亡の大きな原因となっている。既知の危険因子の早期発見、確認、迅速な治療によって、予防、管理、リハビリテーションを大きく前進させることができる。しかしながら、(健康と思われる)一般集団において早期発見を実現することは、多くの理由から困難である。病気にかかっている人が多いこと(また、スクリーニングを行わなければならない人口が多いこと)、さまざまな危険因子が関係していること、集団スクリーニングを行なう場合の経済的負担と、医学上および管理上の困難——などがその理由である。

これに対して自動化多相スクリーニングの技術を応用すれば、大人口のスクリーニングを妥当な費用で手早く行なうことができる。このようなシステムを既存の保健医療機構に組みこむことによって、一定範囲の集団の連続的検査を効率的に実施することができる。

利用しうる包括的コンピュータ・データ(絶えず増加している)は、ある種の危険度の高いグループもしくは個人を確認するのに用いることができる。あらかじめ

定めた基準によって(例えば年齢、性別、職業、危険因子の種類と程度、偏差の組み合わせなどによって)上のようなケースを選び出すための特別のプログラムがつけられた。この技術を利用すると、危険度の大きい個人を確認するのに(そして彼らをしかるべき保健医療機関に送るのに)役立つだけでなく、試験した集団における主要な健康問題、保健医療の質、患者の指示順守の程度、満足度、あるいは将来のニーズなどを判断するのにも役立つ。

この報告では、約3万人のイスラエル人の主として労働者についてのデータ・ベースから得た研究所見を略述する。この集団における心臓血管の危険因子の種類と程度を分析する。これらの研究所見が、各種保健医療サービスの優先度やニーズに関する保健医療機関(W.S.F)の決定にどのような影響をおよぼしたかは、このスクリーニング計画によって発見される高血圧の成績を見ればはっきりと示される。

(国際学会抄録集より転載)

Computerized Multiphasic Screening for Identification of High Risk Group

* MOR Institute and the Dept. of Preventive and Social Medicine, Tel Aviv University, Israel